

ドイツ学術情報 (2012年4月～6月)

< 目次 >

- | | | |
|---|---|-----|
| 1 | ピックアップニュース | …p1 |
| | エクセレンス・イニシアティブ第2ラウンド最終審査結果 | |
| 2 | その他のニュース | …p4 |
| | ① ボローニャ会議:「財政危機の正しい解決策は教育への投資である」 | |
| | ② DAAD が奨学生の集いを開催 | |
| | ③ 大学国際マーケティング調査結果 | |
| | ④ 「科学自由化法」:学術により多くの裁量の余地 | |
| | ⑤ 学位制度変更後の大学中途退学率 | |
| | ⑥ ドイツ全土で約 20 万人が博士号の取得に向けて励んでいる | |
| | ⑦ 5 人のうち 2 人が標準修業年限で卒業 | |
| | ⑧ アレクサンダー・フォン・フンボルト財団(AvH)がフェローシップの1人
当たりの支給額を増額 | |
| | ⑨ より多くの女性教授を | |

1 ピックアップニュース

エクセレンス・イニシアティブ第2ラウンド最終審査結果

ドイツ研究振興協会(DFG)とドイツ学術審議会(WR)は、2012年6月15日、エクセレンス・イニシアティブ第2ラウンドの審査結果を発表した。

エクセレンス・イニシアティブとは、ドイツの学術研究を強化して国際競争力を向上させるために創設された、日本のグローバル COE プログラムとも比較される大規模プログラムである。エクセレンス・イニシアティブには、①大学院設立構想(グラデュエート・コレク)、②研究拠点設立構想(エクセレンス・クラスター)、③大学の将来構想(エリート大学)の3つのプログラムがある。

2006年から2007年にかけて始まった第1ラウンドにおいては、①大学院設立構想では39件、②研究拠点設立構想では37件、③大学の将来構想では9件が採択されていた。第2ラウンドの審査では、まず“short proposal”による予備審査が行われ、続いて“full proposal”による最終審査が行われたが、すでに採択されている課題の継続申請については“short proposal”の提出は免除されていた。

プログラムごとの申請・採択状況は表1～3のとおりで、③大学の将来構想(エリート大学)の申請、採択大学は表4のとおりである。

表1 ①大学院設立構想(グラデュエート・コレーク)申請・採択状況

	継続申請	新規申請のうち、予備 審査を通過したもの	計
申請数	38件	25件	63件
採択数	33件	12件	45件

表2 ②研究拠点設立構想(エクセレンス・クラスター)申請・採択状況

	継続申請	新規申請のうち、予備 審査を通過したもの	計
申請数	37件	27件	64件
採択数	31件	12件	43件

表3 大学の将来構想(エリート大学)申請・採択状況

	継続申請	新規申請のうち、予備 審査を通過したもの	計
申請数	9件	7件	16件
採択数	6件	5件	11件

表4 大学の将来構想(エリート大学)の申請、採択大学

	大学名	第2ラウンド採否結果 (支援期間:2012-2017)
第1ラウンドで採 択された大学	ベルリン自由大学	○
	アーヘン工科大学	○
	フライブルク大学	×
	ゲッティンゲン大学	×
	ハイデルベルク大学	○
	コンスタンツ大学	○
	カールスルーエ工科大学	×
	ミュンヘン大学	○
	ミュンヘン工科大学	○
	A.第1ラウンド採択大学計 (採択/申請)	6/9
新規に申請した 大学(第2ラウンド 予備審査通過)	ベルリン・フンボルト大学	○
	ボーフム大学	×
	ブレーメン大学	○



	ドレスデン工科大学	○
	ケルン大学	○
	マインツ大学	×
	チュービンゲン大学	○
	B.新規申請大学計 (採択/申請)	5/7
合計(A+B)		11/16

①大学院設立構想と②研究拠点設立構想の最終審査は DFG が担当し、計 457 名の審査員のうち、約 87%が外国に拠点を置く者であった。③大学の将来構想の最終審査は WR が担当し、計 119 名の審査員のうち、84%が外国に拠点を置く者で、そのうち 3 分の 2 がヨーロッパから、残りがアメリカやアジアからであった。

エクセレンス・イニシアティブ第 1 ラウンドによる支援は、2012 年 10 月 31 日で終了する。第 1 ラウンドの予算総額は 19 億ユーロであったが、第 2 ラウンドでは 2017 年までの 5 年間に 24 億ユーロの予算が用意されている。予算のうち、75%を連邦政府が、25%を州政府が負担する。

第 1 ラウンドで採択され、第 2 ラウンドでの継続支援が認められなかった課題に対しては、向こう 2 年間にわたって終了に向けた予算支援が行われる。このために、連邦政府と州政府は共同で 9,120 万ユーロを用意している。1 年目には第 1 ラウンド最終年度の予算の 70%に相当する額が、2 年目には 40%に相当する額が支援される。

DFG HP プレス

http://www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2012/press_release_no_26/index.html

採択課題一覧

http://www.dfg.de/download/pdf/foerderung/programme/exin/funding_decisions_exin_en_120615.pdf

大学ごとのプログラム採択状況

http://www.dfg.de/download/pdf/foerderung/programme/exin/entscheidung_exin_karte_120615.pdf

ドイツ科学・イノベーションフォーラム(DWIH) HP(日本語)

<http://www.dwih-tokyo.jp/ja/home/news/detail/article/2012/06/26/%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E7%A0%94%E7%A9%B6%E6%94%AF%E6%8F%B4%E3%83%97%E3%83%A%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%A0%E3%82%A8%E3%82%AF%E3%82%BB%E3%83%AC%E3%83%B3%E3%82%B9%E3%82%A4%E3%83%8B%E3%82%B7%E3%82%A2%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%96%E9%81%B8%E8%80%83%E7%B5%90%E6%9E%9C%E3%82%92%E7%99%BA/>

(関連記事)

エクセレンス・イニシアティブ予備審査結果について

JSPS ボン研究連絡センター「ドイツ学術情報(2011年1月～3月)」

http://www.jps-bonn.de/fileadmin/bonbon_dokei/BonBonDokei31gaku.pdf

2 その他のニュース

①ボローニヤ会議:「財政危機の正しい解決策は教育への投資である」(27 Apr 2012)

ルーマニアの首都ブカレストで4月26日から27日にかけて、欧州高等教育圏の教育や学術担当大臣47名が集まり、ボローニヤ会議が開催された。この会議での主要なテーマは、大学生の国際的流動性をより高めることと、両親が大学卒ではない家庭の若者にも大学教育を受けさせることであった。これらについてのその後の進捗状況は、2015年にアルメニアで開催される次回のボローニヤ会議で総括されることになっている。

各国は財政危機により緊縮財政政策を強いられているが、会議では「財政危機への解決策はまさに教育への投資である」という声明も発表された。

BMBF HP <http://www.bmbf.de/press/3223.php>

dpa(ドイツ通信)-Dossier Bildung Forschung Nr. 18/2012 30. April 2012

2012 Ministerial Conference and Third Bologna Policy Forum HP

<http://www.bologna-bucharest2012.ehea.info/>

②DAAD が奨学生の集いを開催(16 Apr 2012)

4月20日から22日にかけて、ゲッティンゲン大学でDAAD奨学生の集いが開催された。この会合は、DAADの奨学金を受給しながらドイツの大学で勉強している外国人留学生同士が知り合い、お互いの経験を話し合うために開催されたものであり、95ヶ国からの500名の奨学生が参加した。参加者の多くは、すでに母国の大学を卒業しているが、母国での学修を補完するためにドイツの大学で学修を継続している。

この会合のハイライトは、ノーベル賞受賞者であるマックスプランク生物物理化学研究所長のエルヴィン・ネーアー教授による講演である。ネーアー教授の講演に続いて、奨学生の代表者が各自の研究テーマを紹介した。

DAAD HP <http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2012/20564.de.html>

③大学国際マーケティング調査結果(24 Apr 2012)

ドイツ留学生バロメーター(D-ISB)は、2011年10月から12月にかけて、留学生に対するアンケート調査をドイツ国内の52の大学で行った。ドイツ大学長会議(HRK)とDAADが主導し、52の大学が加盟している大学国際マーケティング調査「GATE-Germany」は幅広い調査を行っているが、今回のアンケート調査はその一環で行われたものである。調査は、ドイツの大学に在籍する1万7,732人の外国人留学生を含む、16ヶ国238大学の計20万9,422人の留学中又は留学経験のある学生に対して行われた。

ドイツでアンケート調査対象となった52大学からの調査結果によると、実践的な授業(他国を含めた調査結果の平均よりも+5.5%)、研究志向の授業(同+2.5%)、機械設備の充実(同+2.3%)、質の高いカリキュラム(同+2.2%)や教員(同+2.1%)といった項目で特に高い満足度が示された。さらに、生活費が安いこと、外国人に対するホスピタリティーを感じたこと、任期の長い職業に就ける見込みが高いことなどにより、調査対象者はドイツを留学先として勧める傾向にあった。

しかし、改善が求められている点もある。語学学習への支援、学級編成、研究テーマ変更を含む学業に関する相談、宿舎といった項目に対して改善の要望が寄せられた。

本調査結果の概要(英語版)は、次のURLに掲載されている。

http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2012/17_Executive_Summary.pdf

DAAD HP <http://www.daad.de/portrait/presse/pressemitteilungen/2012/20663.de.html>

④「科学自由化法」:学術により多くの裁量の余地(02 May 2012)

連邦政府内閣は2012年5月2日に、大学外学術機関の会計法上の枠組みに柔軟性を与える法律(科学自由化法)の草案を可決した。これにより学術機関は、財政運営上より強い自主性と柔軟性を持つことになる。過剰な規則は撤廃され、成果に対するインセンティブが強化され、財源のより効果的な投入が可能になる。この法律は、2012年12月31日までに発効することになっている。

ここで言う「大学外学術機関」には、ドイツ研究振興協会(DFG)、フラウンホーファー研究機構、マックス・プランク協会、ヘルムホルツ協会、ライプニッツ学術連合、ドイツ国立学術アカデミー レオポルディーナといった機関が該当する。

BMBF HP <http://www.bmbf.de/press/3268.php>

BMBF HP <http://www.bmbf.de/de/12268.php>

AvH HP <http://www.humboldt-foundation.de/web/press-release-2012-13.html>

HRK HP http://www.hrk.de/eng/presse/95_2925.php

⑤学位制度変更後の大学中途退学率(07 May 2012)

大学情報システム社(HIS)が大学中途退学率に関する調査結果を発表した。それによると、ボローニャ・プロセスにより、マギスターやディプロームといったドイツの伝統的な学位制度から、バチェラー、マスター、ドクターの3段階学位制度に変更したところ、はじめは中途退学率が増加したが、数年を経過すると、変更前に比べても減少傾向にあるという。

この傾向は、専門大学において特に顕著である。専門大学では、4年間で中退率が半分以上にまで低下した。2006年度卒業の学年では、39%のバチェラー課程の学生が中退していたが、2010年度は19%となった。

専門大学(Fachhochschulen(Universities of Applied Sciences))に遅れて学位制度の変更が行われた大学(Universitäten(Universities))においては、2002/2003年度入学者と2006/2007年度入学者との4年間の比較調査では、中退率が25%から35%に増加した。

専門大学と大学の合計では、2004/2005年度はバチェラー課程入学者の中退率が25%であったのに対し、2006/2007年度は28%であった。

中退率が最も高いのは、依然として工学分野である。バチェラー課程での中退率は、専門大学では30%、大学では48%となっている。

BMBF HP <http://www.bmbf.de/press/3274.php>

HIS HP http://www.his.de/pdf/pub_fh/fh-201203.pdf

⑥ドイツ全土で約20万人が博士号の取得に向けて励んでいる(14 May 2012)

2010/2011年度冬学期において、約20万400人がドイツの大学での博士号取得に向けた研究をしていた。そのうち半数弱は、大学には学籍登録せずに、研究所や企業の業務に従事しながら博士論文に取り組んでいた。これは、2012年5月8日に連邦統計局が初めて把握することのできたデータを基に報告したものである。博士号を取得するのに成功したのは2万5,600人であった。

最も多く博士論文が書かれているのは数学と自然科学分野(5万8,400人、29%)で、続いて工学(22%)であった。さらに、言語や文化研究(19%)、法律、経済、社会学(18%)と続いている。

博士論文に取り組んでいる者のうち、約41%が女性であった。女性の占める割合は、文化研究では67%、医学では59%と高く、反対に最も低いのは工学で19%であった。

連邦統計局による調査の結果は、次のURLに掲載されている(ドイツ語)。<http://dpaq.de/3YeHi>

dpa(ドイツ通信)-Dossier Bildung Forschung Nr. 20/2012 14. Mai 2012

⑦5人のうち2人が標準修業年限で卒業(21 May 2012)

2010年度は、5分の2にあたる大学生しか標準修業年限内で卒業していなかった。合計で30万9,200人の大学生がバチェラー課程などの第一の課程や、2つ目の専攻又はマスター課程などの第二の課程を修了したが、このうち39%の大学生しか標準修業年限内で修了していなかった。バチェラー課程のみでは5分の3にあたる大学生が標準修業年限内で修了していた。これは2012年5月18日に連邦統計局が公表したものである。

図書館学/ドキュメンテーションのバチェラー課程では、全員が標準修業年限内で修了していたが、この課程の卒業生は4人しかいない。これに対して、標準修業年限内で修了率が最も低かったのは、専門大学の生物学の課程で、1.6%であった。

dpa(ドイツ通信)-Dossier Bildung Forschung Nr. 21/2012 21. Mai 2012

DFG HP

http://www.dfg.de/en/service/press/press_releases/2012/press_release_no_07/index.html

http://www.dfg.de/foerderung/info_wissenschaft/archiv/2011/info_wissenschaft_11_16/index.html

⑧アレクサンダー・フォン・フンボルト財団(AvH)がフェローシップの1人当たりの支給額を増額(24 May 2012)

アレクサンダー・フォン・フンボルト財団(AvH)は、外国からドイツに来る研究者向けのフェローシップの支給額を2012年12月1日から増額する。ポストドク向けのフェローシップは月額2,250ユーロから2,650ユーロ(約18%増)に、シニアの研究者向けのフェローシップは月額2,450ユーロから3,150ユーロ(約29%増)に増額される。新設の家族手当も用意される。例えば、片親である研究者に対しては、1人目の子どもに対しては月額400ユーロ、2人目以降に対しては月額100ユーロの手当てが支給されることになる。

しかし、外国人向けフェローシップの予算総額に変動はないため、フェローシップを受給できる人数は減少する。件数にして70人分、率にして12%の減少が見込まれている。

AvH HP <http://www.humboldt-foundation.de/web/press-release-2012-16.html>

duz MAGAZIN(ドイツ大学新聞)2012年6月号

⑨より多くの女性教授を(18 June 2012)

大学教員のほとんどが男性であり、女性教員は少なすぎる。この状況を変えるためにBMBFは2008年に「女性教授プログラム」を開始し、連邦政府と州政府はこのプログラムのために共同で1億5,000万ユーロを支出してきた。説得力のある男女雇用機会均等コンセプトを提示した大学は3名分までの女性教授ポストに対して財政支援を受けることができ、これまでに152の大学が申請し、110の大学が採択されている。2008年からの4年間で、260人の女性が任期付きでない教授として採用され、2000年は10%であった女性教授比率は20%に倍増した。

BMBFのコルネリア・クヴェネット-ティーレン事務次官は、「このプログラムは追加で260人の女性が教授として採用されるという状況を生み出しただけでなく、社会の変革にも貢献している」と強調し、「女性教授比率の上昇はこのプログラムによるところが大きい、20%ではまだ満足できる状況ではない」と述べている。

6月29日の連邦政府と州政府による合同学術会議において、女性教授プログラムの第2期について決定されることになっている。

BMBF HP <http://www.bmbf.de/press/3297.php>



ぼんぼん時計第36号

日本学術振興会ボン研究連絡センター

JSPS Bonn Office

Ahrstrasse 58, D-53175 Bonn (事務所住所)

Postfach 20 14 48, D-53144 Bonn (郵便物用)

Phone +49 (0) 228-375050 Fax +49 (0) 228-957777

www.jsps-bonn.de